

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 2008年度 ラブ・ローフ募金活動報告

募金件数：511件
募金金額：4,677,419円
配布個数：約100箱
対象期間：2007年10月1日～2008年9月30日

皆さまのご協力により、WFP（国連世界食糧計画）との共同事業として、ジンバブエ、ウガンダなどにおいて多くの支援活動を行うことができました。感謝とともに、ここにご報告させていただきます。

【ジンバブエにおける食糧援助事業】



■ 食糧不足などにより、平均寿命が36歳にまで低下

ジンバブエでは2006～2007年の収穫期に降水量が極端に少なかったことにより、深刻な干ばつが発生し、世界最悪のインフレ、HIV／エイズの蔓延によってすでに危機的な状況にあった農業は、壊滅的な影響を受けました。

その結果、収入や家を失った約70万人もの人々が国内避難民となり、人口の45%の人々が栄養不良におちいり、平均寿命は世界で最も低い36歳にまで下がってしまいました。

■ 弱い立場にある人々を優先し、食糧を配布しました

ワールド・ビジョンではWFPと共同で、ジンバブエの5地域に暮らす約33万人の国内避難民の人々に対して、約2万4千トンの食料（穀物、豆類、植物油、トウモロコシと大豆を混ぜた栄養価の高い混合食セット）を配布しました。

活動では、特に弱い立場におかれた人々を配慮し、HIV／エイズなどの慢性的な病気を持つ家族がいる世帯、子どもや高齢者、女性が世帯主となっている世帯、障がい者を持つ世帯などを中心に、食糧を配布しました。国内避難民のなかでも、支援や情報から最も遠ざかりやすいこれらの人々が支援活動のなかで特に光を当てられたことは、大きな意義があります。



食糧を受け取り、笑顔を見せる男子

【ウガンダにおける食糧援助事業】

■ 内戦、異常気象などにより食糧事情が悪化

ウガンダ北部で約 20 年間続いた政府軍と反政府軍の内戦により、これまでに約 200 万人もの人々が故郷を追われ、多くの人々が命を落しました。さらに 2007 年 7 月以降、北東部で続く豪雨によって、国内避難民を含む約 30 万人の人々に、被害が及んでいます。

2006 年 8 月に結ばれた停戦合意をうけて、国内避難民の人々は少しずつ故郷へ戻り始めています。現在は、母体となっていた大規模な避難民キャンプから、それぞれの故郷により近い地域へ、少しずつキャンプが分散してきている状況です。



配布の順番、方法を確認するスタッフ

■ 支援を受ける人々と協力して、活動を行いました

ワールド・ビジョンでは 2005 年 6 月から 2008 年 4 月にかけて、ウガンダ北部のペーダー地域で食糧支援を行いました。これまでに WFP と共同で、54 カ所の避難民キャンプに暮らす国内避難民の人々約 30 万人に、約 2 万 4 千トンの食料（穀物、豆類、植物油、トウモロコシと大豆を混ぜた栄養価の高い混合食セット）を配布しました。

また洪水により深刻な影響を受けたテソ地域に暮らす約 10 万人の人々に、合計 3,494 トンの食料を配布しました。

ワールド・ビジョンでは支援を受ける人々を対等なパートナーとして位置づけ、支援活動への積極的な参加を大切にしています。ペーダー地域での活動でも、人々のなかから選ばれた 236 名の代表者が、食料の管理、食料を配布する人々の決定、配布作業に積極的に関わりました。それによって、人々自身のリーダーシップを強化し、お互いに支えあう心を育てることができるように進めました。

たくさんのご協力、ありがとうございました！



ラブ・ローフ募金箱が新しくなりました。
詳しくは、団体ホームページをぜひご覧ください。

●お問い合わせ／募金箱のご請求は…

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-17-8-3F

電話：03-3367-7621（支援者サービス課直通）Fax：03-3367-7652

Eメール：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.or.jp